



貴
4362 / 諸国
此頃 好色遠保衛帳 三

有
五
傳
為
三



秋人上戸此樂あらそひやあつしめし編の障子
むきき火燈小徳是こし入小徳の腰どうしをながく
煙作撲らぐとくして居るるあふんらとよ熱れい
美秋れ芭蕉とも云はれりかろきまふとテ入してか
ど一昔あかけの齋ふいやは相れ拵下法れくる徳
と踏切らるとして居て行もにさげぬ寺のぬれをよ
巻ふら鳴込は上人れりさかざりなく絵成れ残るよ
うめさせ小徳が痺れさゆるも回者ともう徳
云も様次天香書一浮世形一果一あると内皆書
よ傾婦と下りひと云事いふさうなよそやとよ人
りれん毆るさくくしてさんか根よ細況あまらう土農

三ノヤリヤマン
ユ高少つしも少つと慰らてなぐしそへ八金額一六
日衣掛書よめひく公よははさうゆつりて忠とつり
農分云耕分秋耘手て一日七安事なり一六已くが穢小う
づこのむで名と書らうし事と書ふも高ハ云ひと與一混
能とがんがくめつハ高云よなりそ能ととつだけ皆の
一ととらうししりつなりこれ少うつてなぐさしり
くいしきなるれハ自然と流るてを尋れ病とせし
余とらうしり小斗なり心の二字とらうしりもど利の余
とめづるやうハ高云なる事とおのふも二つともなく
云くししなく唯せ色移れ一つなりかろくゆくに漂ハ深
淹れ根ともせんぞこて多字しし世根とすてよと

ト後世高婦れ物右とははとらなり又法人整里小
びり妙なり小交三時後の貞節と中てハ居れ安んた
こめとこまおこめと云けおめと云と色用してよ録と
トさりみぎしは税ハ金用と一書流ハは色根れ税と
りらゆぐかされを上人とそやがとハいんうりまは
よ。前代内不費あつれととり志下地と一揚を
乃舞ニニ交しぬ手せり及りなりまらぶがとは執
物れ海世小とさうなむい世林家よりおよあうのむ
人交しせのば松が交角梅が天林角高人れ寝
びれやうしなりいきやめく人高も舞子れがらりめ
とあつとめどは着ととまられてハ教にたれへ

らむらむら海をえよりかへえ使收を徳らら徳
裁れまやなるしきりす色里とまふ八鬼は信家は徳
つゆ令れぬよれぬくもけく奉中寺まらりれぬ
ぬ家でもぐり書とよよりやがと八巻よ書と并ぞ
とてけけゆと宣られハよんやもそつとつと
いざけまふ河津川は流れぬ信里へよせし心は
と養ふる一と信里とあ及中ととかいすぞ川こみ三
人むつと裏つ下り夢ひお命なりなりとなしけれ大
つとま入む縁上げかみゆの上層ともし二あがれとぞ
まどつとてけふしと首書れしを地獄よつとぞ
しとまがらを培れがらなりとまよなりと録しり

あともなう神と引て上よのけ面白ともしつとつとま
らぬとそとごうごいしやつとて真に院れぬとぞ
け樹をぬでハたりわしとらつと園をぬやぬたりとまをへ
つと一れを又三條野と叫とつと次たり大被二人まぞは色
てまらつととく大をとつとつとたふかへんぞと樹て
叫とつと物をれをめぐりして照と半小なりしと
まの志りのあてと岩より使とまぬ馬鹿がふと
てまらつと沙末の養作たり納不まら坊方よりれと
紙とまらと徳及てと人よみとらよ久野村ぬ名を徳とら
病氣書中しあつとあつとまらとまらとまらとまらと
引奪れとたてつとつと一ヤ本はまらと海あそと



さんぐくいとあの上人きとくもつゆはよひふ
 ハ妙ての西ぎんかろくあささあおまら
 いまごめだんごさねはあまの事としてし
 くらあつたばうごうごもゆれぬはす
 ろさうりけしん人しあつたんやゆり
 けい ちぢよりちぢとらとてお
 せごしあまやうもあなそへおあそ
 ろめはあささあさあさあさあさあさあ
 してはあささあさあさあさあさあさあ
 するあさあさあさあさあさあさあさあ
 するあさあさあさあさあさあさあさあ



海をそれのほしきりわれ樂こぞうしうわす
 六舟まらまんとわと実ぬりれ君はいた史うよふ
 もいられどさて三人かうらつて大つ口とがいで
 甚たそのまわれよ人の書車れよひあうらもうぬ
 くだ時目もよとあうらうらうらうかを著め
 かんし何と守とて極樂へうせとるものなる
 すいとたごうれ無はんらもよひかかんよあどハ
 うてどしけ松文物さよりのとて七志ころ因果な
 せとさげとて四寺れ門らうくならぬ悔をして
 くれ

口は舞て身の後と悔

叔もお寺はつられまらうらやゑれ山本和哉乃と人なと
 銀笑は松とくぬをる諸れ女中よあうるや
 ちのされりるの此たれちとは新あ悪太級とて上臈
 ともうらあきてハたごりる杯けも半さて桃の花
 も香と矢ひ宿やくれ茶餅とうら松いご掃細れ
 かくるおせんといのよかもうぬぬ大教へそほも究中
 よかりて美物聖まのとと一たよりをまん口せと
 地ころるあはしてよよあある神とむるへしはは乃世と
 おせう織は扇と拾てりしれ神はなごもの扇よひ
 とめさうらうらういざいざははとあうらうとと
 皆ととらんぞとせは合念れゆぬとて

道六舟のよなよのふらりんども毒さしよふ人
中へは後乃若よとは濡衣に返身行よめい下家と又
酒と強てハ飲酒戒負おとさくめて殺せし戒い甲心裁
あて敵を志と偽めくま法戒年中此施おも由寺
の財よなたてしす皆い異運ひ多ひて偷盜戒
もうよ戒れ内二つしねろあなうたをせよふも家
ゆんたれぬ後ろをれ罪障ハと後と氣よとて
志ごしどやもさくらふればと人よるさとも言たが
アよ居かくとり急なりた文よも三尊守師に釋列
ハ但繫経に本入しそを戒そそあ少は戒りたことと

後せのふ又おを養れしじハ七舟とそなまもたつ女よ
深き佛よありあひてハ新造乃妙女と風車よ志あふ
後せいれりど一がハ本中ハ果れたとく巻中をく
アくこのもいよ人よわけとよくゆらうよのなひりか
なく佛よもるハ何れもらもつねよかろつと疑事
かく貴とさくまよま実れ所作と流くしてあはなを
と麻に要るしハるりどるともくさあそおがな
汗とながハ後あふむる後野もあうく今かす
佛身よままでたてやさたてすうつと八杯入といふ
けむと人嫌ハ其あまりにいふを者ハ福にれは式
まぬてたふハ一と中ら留りハ名を交ぬる耳ハ

申すはしこしうらとけあるあつこいおのこ
 びとよる本と振りざちやれまゝあはれんもか
 よよとんすもいひていひていひていひてい
 ねーくの子おんこくつりたなくおの目もあはれ
 な業内かーよあけぬ寺女お宿りうあむり
 ねとくーとよんすひのこめまゆりまーと
 云ながし角く一目とほくろよ眠るは服よりうら乃
 乃若まよりそはかまれのあとおだけむ内よりいひ
 ち徳しそはるぶる唐描乃子おあると内りしとよそ
 久あつしとよをりていれはつらとよそあわねは
 年比たごうりれ大黒衣改白よけよほくろひて居

ころり見つとん志りかりたがとつんでいふ
 うづうとびて居るそらあつしと巴やがなるん
 命ととてハとくゆとと候はるは食つくとよ人あつ
 子おとなけお一橋桐葉れ柄れひーがたかた
 きぬせたいらんたり女あ今やそへおおよめんと
 ねらりたがれがめれとよとばとよとよと人恨が
 あつしとやさりのとは今れあつしとよとよびかを振
 取と美徳野神よとごりまづとよとよとよとよ
 うやれりなりとよとよとよとよとよとよとよ
 うとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ
 ちとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよ

とありひるぎし扱しせいひのさ事やとほもあね眼
 後とありれば上人と見えさうさうしつが付別後と
 よあしと後れ松山へおらうく先作し卦拾まると大
 判よあんだんごしよさるるを代れ後柄らうて服
 松陸へ入るる能本と上人下りよ居あむむれ
 後梅とさうらりし物さう只今うか山完のかり末練
 とにらあふむしつと付とさうさうさうさうさうさう
 し上人下りよさるる新理うさせと掌と合南を妙法を
 華經と唱る色もさうらりよまたと色外本とよひ
 かつんとたみみけうさうさうさうさうさうさうさう
 へけ足がやよ退からうそそ費しめもた守後けり

れ見んさうくんげしと夜やよ新のいよあふ中下りよ
 やく船落もさ子持と美と野ハ捕さしふは首ねた
 しかさうり美とあり子持よ云やう怪あゆのうくかあ
 えとりも忍が考あわわかしざりし家命とさうさう
 ひけそつあふハあし縁どもさるるこれなうし海とこ
 と紙うと中もさるるさうさう何とて美くさうさうさう
 んごさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 ながさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 さうりあんならしあその偽れつらうらうこれ入りさう
 後く色深く松とさうさうさうさうさうさうさうさう
 うもせぬ我海湖さうさうさうさうさうさうさうさう
 北の冬

